

講師紹介

早川
たかし



【勤務経歴】

1985年～2004年 富山大学教育学部附属養護学校・文部教官教諭
2004年～2017年 NPO法人 富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊 理事長
1999年～2018年 富山大学非常勤講師（総合科目「人権と福祉」）
2004年～2007年 富山短期大学・幼児教育学科非常勤講師（「保育内容・環境」）
2014年～ 福井大学・一般教養「こども環境学入門」担当講師
2010年～ 星槎国際高校・富山学習センター非常勤講師（「福祉ゼミ」）
2010年～ 富山県教員免許更新講習講師に就任
2006年～2008年 富山県総合教育センター 6年次研修生を受け入れ

【中学校・高校・大学 講演実績】

2007年 石川県寺井町立寺井中学校 創立50周年記念講演（中学生500人対象）
2009年 大阪薫英女子短期大学 「遊び力を養成する保育プログラム」
2010年 富山県立西高校・秋の文化講演 テーマ「心豊かに生きることと遊ぶこと」
2011年 名古屋芸術大学・人間発達学部 文化創造セミナー
2013年 東京学芸大学 新教員養成プロジェクト

【講演実績（主催団体）】

2005年 仙台市市民開放講座「不登校・いじめフォーラム」（仙台市教育委員会）
2005年 東播磨地区教育フォーラム（兵庫県・明石市教育委員会社会教育課）
2009年 全国情緒障害児短期療養施設職員研修会
2009年 日本てんかん協会全国大会 富山大会特別講演
2012年 愛知県現任保育士研修運営協議会・主任研修・初任者研修（障害児保育概論）
2014年 熊本県私立幼稚園連盟・荒玉地区教師研修会
2016年 秋田県民間保育協議会 保育の質を高める研修会
2016年 北東北病児保育交流会 分科会「子どもにかかわるスタッフの『遊び力』」
2017年 日本小児科医会総フォーラム IN 富山シンポジウム I・「子どもを育む環境」

【著作（著書 雑誌 学会誌 等）】

「子どもイタズラ村づくり（改訂版）」
（早川たかし 教育史料出版会 単著）
「わんぱくたちの独立宣言」
（早川たかし 国土社 単著）
「明日の遊び考」
（早川たかし 久山社 単著）
「子ども力 × 母親力」
（飛鳥新社 早川たかし・明橋大二 共著）
「子どもの遊びと安全・安心が両立する
コミュニティづくり」
（こども環境学会 分担執筆）
「子育て支援と心理臨床」（福村出版）
（vol. 9, vol. 13, vol. 15）
「NPO通信」
（北陸中日新聞コラム 14回連載）
「第54号 日本小児科医会会報」
（平成29年10月発行）

推薦文

●小島伸也氏（わかば福祉会・針原保育園・理事長、富山県保育連絡協議会会長、富山市認定こども園協議会会長、全国保育協議会副会長）

遊びは「楽しさ」の追及を目的とし、こころと身体をフルに稼働させる”快”の行為です。保育実践には遊び心を満載してほしいものです。「いないいないばー」に「おいかけっこ」、「かくれんぼ」など、親子遊びや伝承遊びは、発達に必要なだけでなく、おとなとして生きるための心の土台になります。

早川先生の話しを聞いたり、一緒に遊んだりすると、保育実践が変わります。血回しは楽しいですよ。親子関係が変わったり、人によっては人生も変わったりします。是非、受講されることをお勧めします。

●汐見稔幸氏（2017年保育所保育指針改訂の審議を行った「社会保障審議会児童部会保育専門委員会」委員長、東京大学名誉教授、NHK・すくすく子育て）

遊びという言葉は誤解されています。真面目の反対語だったり、仕事の反対語だったり、すぐ、遊んでないでちゃんとやりなさい！などと言われます。余暇のときはいいけど、大事なときはいらぬもの、邪魔ものというイメージですよ。

でもこれはおかしい。英語で遊びはplayですが、playという語は、演奏する、劇で演じる、社会で役割を果たすというような意味も持っています。真面目なことの多くもplayつまり遊びなんです。

遊びは他の目的のためではなく、それ自身を楽しむこと、上手になりたい一心でやること、要するに邪心なくやって、そのことを楽しむ行為全てを指しているんです。本当に遊ぶためには、それに没頭できないといけなく、邪心をもってはいけない、うまくなることそのものを目的にできなければいけない。純真になるということです。飾らないで人生を楽しむ人間になるということです。

そう考えると、遊ぶ場もチャンスもたくさん奪われて窮屈な社会を生きてきた今の若い世代は、損をしていると思います。**そのことに気がついたのが早川元祖遊び士が、みんなを早川ワールドに誘っています。ぼくは絶対のチャンスだと思っています。遊び好きな保育者こそが子どもの遊び心の中に入り込めるんです。保育が深く分かるためにも、保育者が遊び好きで、遊び上手でなくてはダメです。ぜひこの機会を活かしましょう。全国から参加されることを期待しています。ぼくも応援していますから。**

●諏訪清隆氏（旭川赤十字病院小児科部長、日本小児科医会子どもとメディア委員）

自分は小児科医として子どもたちの心身としっかりかかわっているだろうか？ 遊んでいるだろうか？ と常々心の奥で考えていました。

「あそび」の素晴らしさは、体と五感を使い、「いっしょ」の時間を過ごし、たくさんの感情を共感し合えることです。そして、遊び終わった後、心地よい疲れとともに、仲間といて「楽しかった」と感じ、そして「また、一緒にあそびたい」と思えることです。今の子どもたちには、メディア環境ではなく、家族で、地域で、学校で「遊ぶ環境」が必要です。

早川さんの遊びのワークショップは、子どもとのかかわり方やあそび方を忘れてしまった大人たちに、大切な事を思い出させてくれるに違いありません。

【主催・連絡先】 富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊 早川隆志
〒930-0138 富山県富山市呉羽町6454-1 TEL/FAX 076-436-6675
E-mail : kawaiгарizm_net@sa3.so-net.ne.jp